

## 谷川連峰 鷹ノ巣C沢

小暮

【日時】 2011年9月18日(日)

【メンバー】 小暮、笹川

谷川南面の沢は、明るくて素晴らしい谷が多いが、アプローチが遠いのが難点である。今回の鷹ノ巣C沢も、登攀終了後の俎山の稜線の藪こぎと中ゴ-尾根の下降を考えるとかなりの早出が必要だろう。前夜に谷川温泉まで車で入り、朝4時30分に起床する。周囲が明るくなってきた5時30分に出発。蛭の巣窟である二俣までのアプローチを足早に進む。先行の登山者が休憩しており、沢登りだったようだ。ヒツゴ-沢に行くようだ。朝早いのはハイカーばかりかかと思っていたが、この谷川南面は様子が違ったらしい。登山道の二俣の先で沢に入るが、どうやら行き過ぎてしまいオジカ沢の方に入ってしまった。沢を少し戻って谷川本谷へ向かう。いわお新道の分岐の手前あたりで入渓するのが一番近いようだ。次に来るときは気をつけよう。谷川周辺は、昨日は土砂降りの雨だったようだが、今朝は、歩いていけばほとんど気づかない程度の霧雨だ。天気は良い方向に向かう予報だが、まだ安心は出来ない。

出合を見逃さないように左岸沿いに進んでいくと、関越トンネルの排気孔が見えてくる。この辺りは、川幅が広いところで、鷹ノ巣沢は沢に並行するような形で出合うので見逃しやすい。よく注意せずに歩いていると、見逃すこともあるだろう。

鷹ノ巣沢の最初の5m滝は、暑いので釜に腰まで浸かってから取り付く。すぐにA沢が合わさり、その先は伏流となっている。正面に広がるナメが、思いのほかスケールが大きくて立派だ。B沢は、ナメ滝の手前に右から合わさる。滝そのものは、それほど傾斜が強くないので、フリーで登り易いところから適当に取り付く。雨も上がってきて、視界がだんだん良くなってきて、陽光に照らされたナメが美しい。15m滝を登ると、その先は大ナメとなって延々と100mは続いている。素晴らしい開放感だ。アプローチの悪さのためか、今日だけでも10人以上は入っていると思われるヒツゴ-沢に比べると、鷹ノ巣C沢は人気が高くないようだが、却って静かで素晴らしい沢だと思う。ナメは右に曲がって、その上は滝が連続している。最初の7m滝は直登するのは難しそうで、右の藪から巻くことも考えるたが、核心手前に残置ピンがあったので、これを確保支点にして10mのお助け紐をロープの代わりにしてリードする。傾斜が強くて難しいバランスだった。その先も5m～



明るく開放的なナメが良い



7m程度の滝が連続して現れるが、ロープを出すほどではなく、お助けを多用しながら越えていく。次第に、両岸が立ってきてゴルジュ状になってくるが、現れる滝は直登して突破できる。

2段30m大滝は立派で絵になる滝だ。記念撮影をする。事前にWebで調べた記録では、直登しようとしてザイルを出して取り付いているが、1段目を上がったテラスから先が手がかりがなくて越えられずに懸垂して戻って巻いている。下から様子を伺うが、やはり2段目は水流も多いし厳しそう。ここはセオリー通り右岸から巻くことにする。藪沿いにも登れるが、時間が掛かりそうなので、草付混じりのスラブ状を適当に岩を拾いながら登っていく。草付きに慣れていない人が居る場合は、ザイルを出して確保した方が良いだろう。我々はそのまま、傾

## 2段 30m 大滝の前で

斜の緩むあたりまで登り、適当にトラバースして滝上に向かう。30m大滝の上も傾斜の強いナメ状の25m滝が掛かっており、こちらもまとめて巻いて、滝上までトラバースする。

その先は、岩がオーバーハングして覆いかぶさる12m滝があり、水流に沿って直登する。5m滝は立っているの、右岸の藪から巻く。連続して現れる滝を越えていくが、再びナメ状の滝が出てきて、本当にナメの多い沢だ。次第に水量が少なくなってきて源頭のようになってくると、奥の二俣だ。水量の多い左に入って沢を詰めていくと、正面には奥壁バットレスが正面が迫っているようだ。天気は相変わらずガスが掛かっていて、時折ガスが切れたときにはバットレスが絶望的に迫っており、真っ直ぐ登るのは岩登りようになってしまいそうだ。最後は、右から入っているガレを詰め、B沢と奥壁との中間にある枝尾根状の草付を登ることにする。

かなり大変そうなので、笹川はスパイクを装着する。私は、今回の沢は転進だったので、うっかり持ってくるのを忘れてしまったので、そのまま取り付く。傾斜が強い上に、B沢側は絶望的な感じで切れ落ちており、露出感、高度感がすごい。灌木を掴みながら岩を拾っていくが、草付きに慣れていないメンバーが居たら大変だろう。ザイルこそ出さなかったが、傾斜が強い草付で大変で、この詰めがこの沢のグレードを1ランク高くしていると思う。

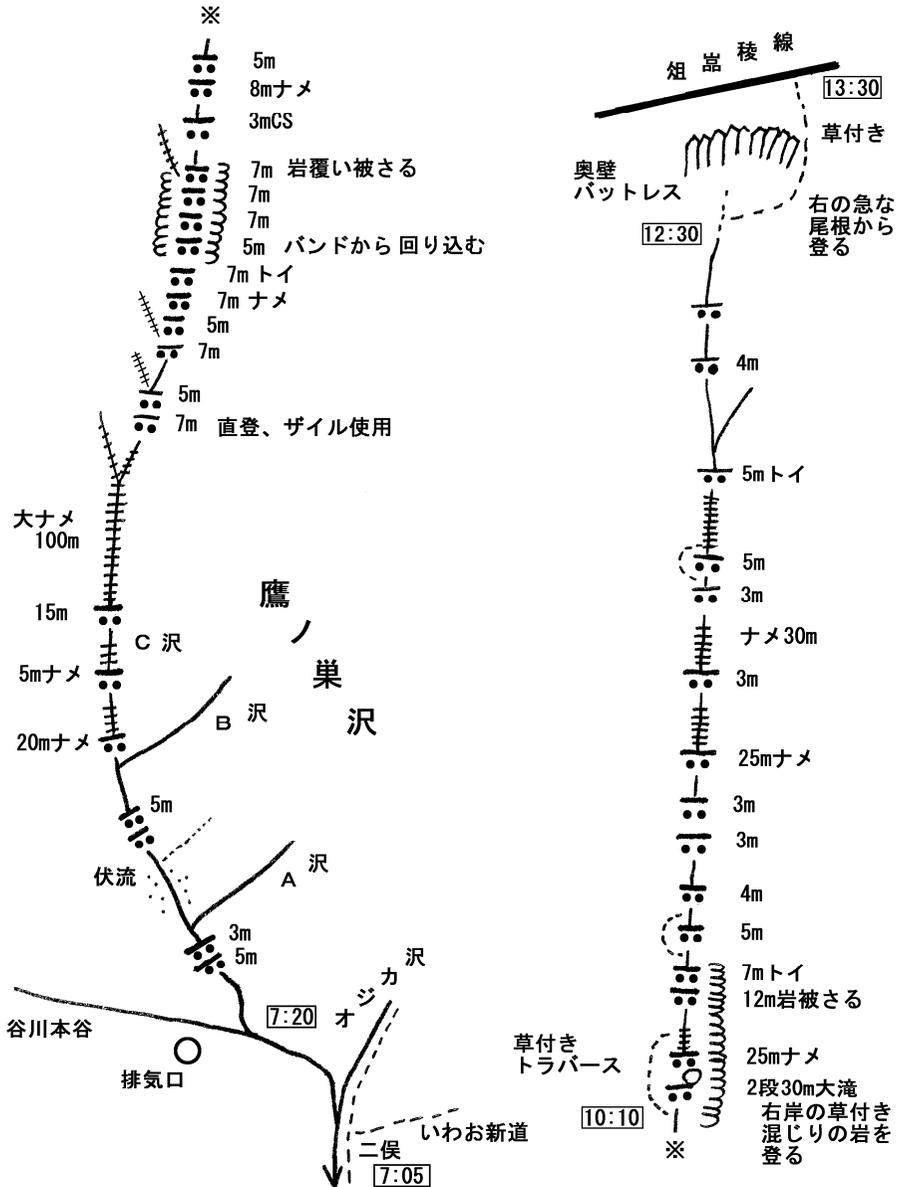
俣尻稜線に出ると、うっすらと踏み跡があり、笹藪をかき分けて両側の切れた尾根をコルまで下っていく。コル付近は、踏み跡が無く、熊笹の藪こぎがつかなく、避難小屋までの登りが辛かった。藪こぎが予想以上に時間がかかり、オジカ沢の頭についたのは、15時を回ってしまった。中ゴ-尾根は日没と競争で、日が暮れるまでになんとか荒れた登山道を下降しきることが出来た。二俣から先はヘッデン行動となり、すっかり暗くなった谷川温泉に戻った。やはり日帰りするには長い沢で、行動時間も13時間を越えて大変だったが、明るく開放的なナメが延々と続く素晴らしい沢であった。



【行程】

9/18 谷川温泉(5:30)～二俣(7:05)～鷹ノ巣沢出合(7:20)～B沢出合(8:30)～30m大滝下(10:10)～奥壁バットレス(12:30)～俎嵯稜線(13:30)～オジカ沢の頭(15:10)～中ゴ－尾根(15:50)～二俣(17:50)～谷川温泉(19:15)

【地図】 水上 【グレード】 3 級



谷川 鷹ノ巣 C 沢遡行図 作図 (小暮)